

氷河時代から生き残った貴重な植物
－ ミツガシワ －

4月に入ると陶史の森の湿地の小さな池に、少数ですが可憐な白い花をつける植物があります。「ミツガシワ」というミツガシワ科ミツガシワ属の植物です。茎先に総状花序（柄のある花が花茎に均等に付く）を出し、直径1cmぐらいの小さな白い花を10～20輪くらい付けます。花は下から順に咲いていきます。白く小さな花は深く5つに裂け、花びらの内側には白い毛がたくさん生えている不思議な花です。カシワの葉に似た3枚の小さな葉が三つ葉のように付いているところから「ミツガシワ」の名が付いたといわれます。昔から健胃・解熱・駆虫などの薬として用いられてきました。

ミツガシワは北半球の寒い地域に広く分布し、日本でも東北地方から北海道にかけては普通に見られますが、その他の地方ではごく少なく点々と分布しています。北海道、東北地方以外で点々と分布しているのは、はるか昔に氷河と共に南下してきたミツガシワの子孫が生き残ったことが原因のようです。氷河時代から生き残ってきた貴重な植物です。

現在、日本全体でみてもミツガシワは減少してきています。他の高山植物や湿地植物と同様、開発による生育場所の縮小や温暖化・猛暑による湿地の乾燥などがその原因と考えられています。ミツガシワの生存も危機的な状況にあるようです。

ミツガシワに限らず、陶史の森にはたくさんの稀少な湿地植物があります。森の自然、湿地を大切に守っていきたいと思います。



ミツガシワの花



ミツガシワの総状花序

森	の
日	記

羊毛をたくさん蓄えました

4月1日(金)

写真は、陶史の森の羊たちの様子です。昨年春に毛刈りをしてから1年でこんなにも毛が生えました。厳しい冬を乗り越えるためにモコモコの羊になりました。これから暖かい季節を迎えることとなります。しかし、このままでは、体温が上がる一方で体調を崩してしまいます。

4月には、暑い夏に備えて毛刈りされたスッキリとした羊になっています。



陶史の森は自然環境保護地域です。動植物や石などは絶対に採らないでください。また、ペットの同伴はご遠慮ください。

教室のご案内

4月

●バードウォッチング

(要申込 定員10人)

4月24日(日) 午前9時～11時30分
春の野鳥を観察します。

※雨天中止

5月

●バードウォッチング

(要申込 定員10人)

5月22日(日) 午前9時～11時30分
初夏の野鳥を観察します。

※雨天中止

※新型コロナウイルスの感染状況により中止になる場合があります。